

<第47回調査>

2013年04月30日

【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施していましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

【調査実施期間】

2013年04月16日(火)13:00~2013年04月23日(火)13:00

※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクスト』に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの取引画面内にアンケートを公開。

今回の有効回答数は396件。

※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

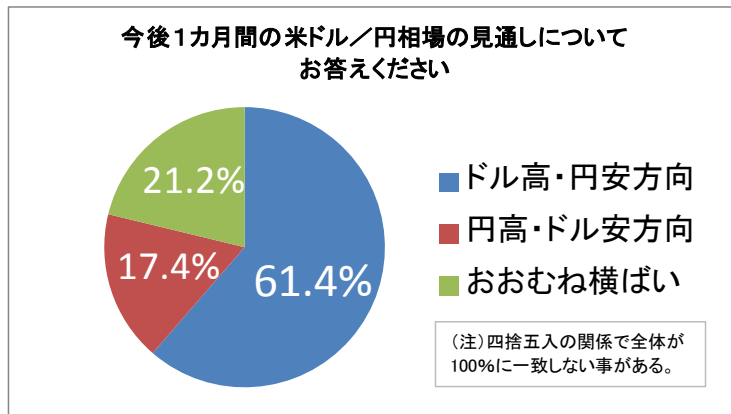
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第47回調査結果略報：米ドル/円、7カ月連続で強気予想を維持】

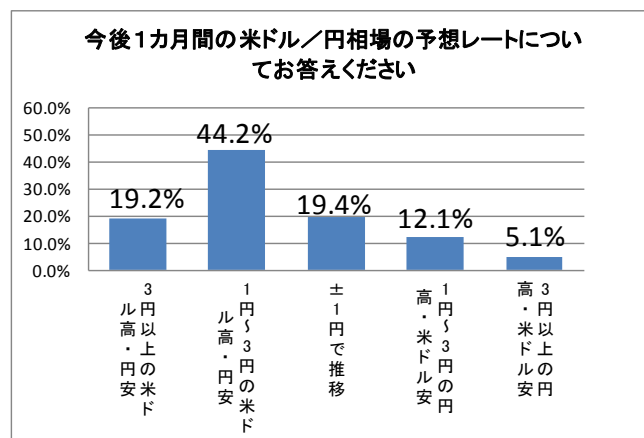
問1：今後1カ月間の米ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が61.4%であったのに対し、「円高・ドル安方向」と答えた割合は17.4%となった。この結果「米ドル/円予想DI」は+44.0%ポイントとなり、前月(+38.9%ポイント)からプラス幅がやや拡大し、7カ月連続でプラス(米ドル強気・円弱気)を維持した。調査期間中のドル/円相場は95.79円-99.87円のレンジで堅調に推移したが、節目の100.00円目前ではオプション絡みと見られる売りが目立つなど大台突破には至らなかった。ただ、G20財務相・中央銀行総裁会議で、日銀の金融緩和が円安誘導に当たらないと確認された事などから、市場では先行き一段の円安を見込む声が優勢だ。FX投資家層の見方も「1ドル=100円は通過点に過ぎない」との見方が主流のようだ。 ※過去のドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問2：今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レートについてお答えください

「今後1カ月間のドル/円相場の予想レート」については、「1円～3円のドル高・円安」が44.2%と最も多く、次いで「±1円で推移」が19.4%、「3円以上のドル高・円安」が19.2%、「1円～3円の円高・ドル安」が12.1%、「3円以上の円高・ドル安」が5.1%の順となった。前月に続き、ヒストグラムの形状は大きく米ドル高・円安側に傾いており、問1の結果と整合的である。なお、前月との比較では「1円～3円のドル高・円安」が小幅に減少(47.0%→44.2%)したのに対し「3円以上のドル高・円安」が増加(13.1%→19.2%)している点が興味深い。米ドル高・円安を予想するFX投資家の一部は1ドル=100円の心理的節目を突破すれば上昇が加速すると考えているのだろう。

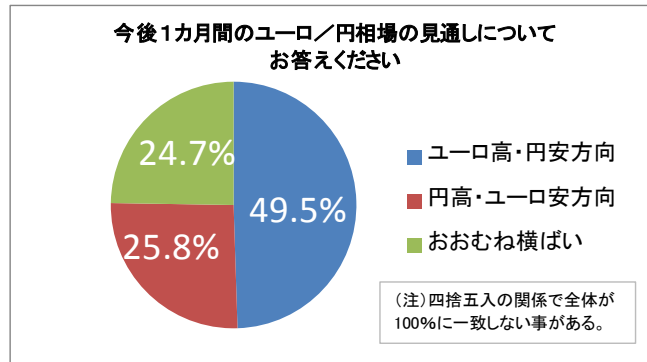


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

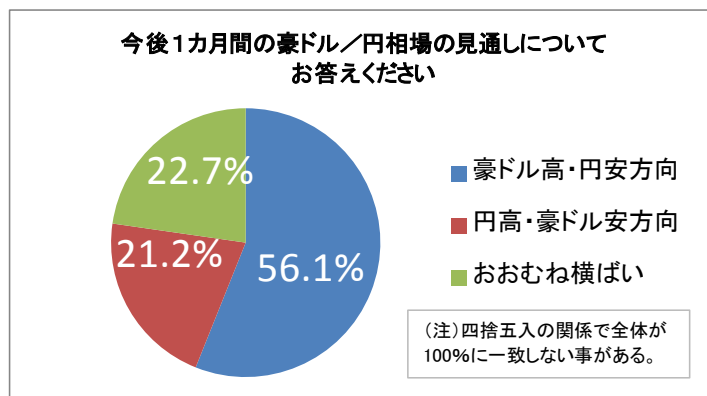
問3: 今後1か月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

「今後1か月間のユーロ/円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が49.5%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が25.8%となった。この結果「ユーロ円予想DI」は+23.7%ポイントとなり前回(+6.3%ポイント)からプラス幅が拡大した。調査期間中のユーロ/円相場は、序盤のコモディティ急落や米ボストンのテロなどによるショックから立ち直り、不安定な値動きながらも124.95円から130.66円まで上昇した。ただ、ユーロ圏については、域内景気の減速懸念や政治混乱への懸念は拭えず、FX投資家の間でユーロ先高感が台頭しているとは考え難い。あくまでも「円安」効果によるユーロ/円の上昇を見込む向きが多いものと推測される。 ※過去のユーロ円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問4: 今後1か月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1か月間の豪ドル/円相場見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が56.1%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合は21.2%となった。この結果「豪ドル/円予想DI」は+34.9%ポイントとなり、前月(+33.4%ポイント)からわずかにプラス幅が拡大した。調査期間中の豪ドル/円相場は98.71円から102.91円のレンジで堅調に推移したが、4月11日高値105.39円から急落した後の戻り局面であり、その反発力は他のクロス円に比べるとやや弱い印象が否めない。もっとも、こうした中でもFX投資家の豪ドル強気・円弱気姿勢は維持されており、調査期間直前に起きたコモディティ価格の急落などは一時的なショックに過ぎないとの見方が優勢なようだ。 ※過去の豪ドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。

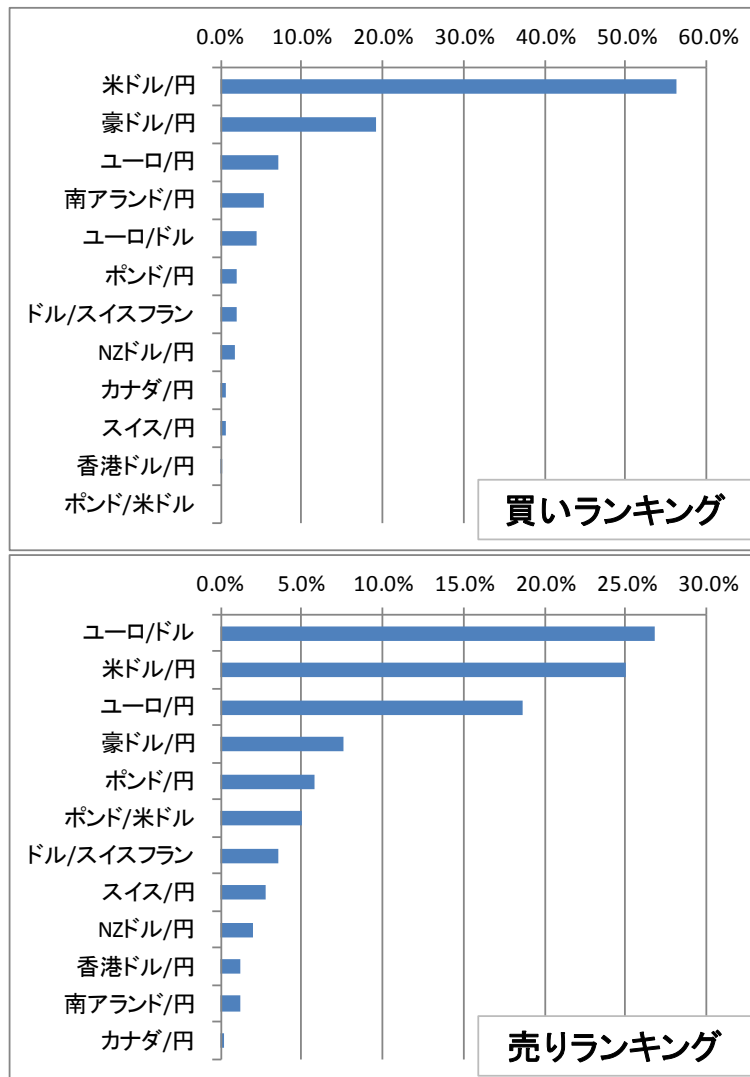


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目されている通貨ペアは、1位米ドル/円(56.3%)、2位豪ドル/円(19.2%)、3位ユーロ/円(7.1%)、4位南アランド/円(5.3%)となった。一方、「売り」で注目されている通貨ペアは、1位ユーロ/ドル(26.8%)、2位米ドル/円(25.0%)、3位ユーロ/円(18.7%)、4位豪ドル/円(7.6%)となった。「買い」で注目の通貨ペアについては、前月から順位に変動がなく、回答割合もほぼ同様だ。米ドル/円が「売り」で注目の順位を先月の3位からひとつ上げている点から見ても、FX投資家の売買興味が一層米ドル/円に集中している様子が窺える。米ドル/円が「売り」で注目の通貨ペアで2位に順位を上げた事については、問1および問2の予想DI(米ドル/円のほうが予想DIのプラス幅が大きい)から見ると不整合な結果だが、現在米ドル/円を買い持ちにしているFX投資家が利益確定の「売り」のチャンスを窺っていると考えれば納得できよう。あるいは、注目度が高い(人気が高い)が故に、アンチ米ドル/円派も少なからず存在するという事かもしれない。

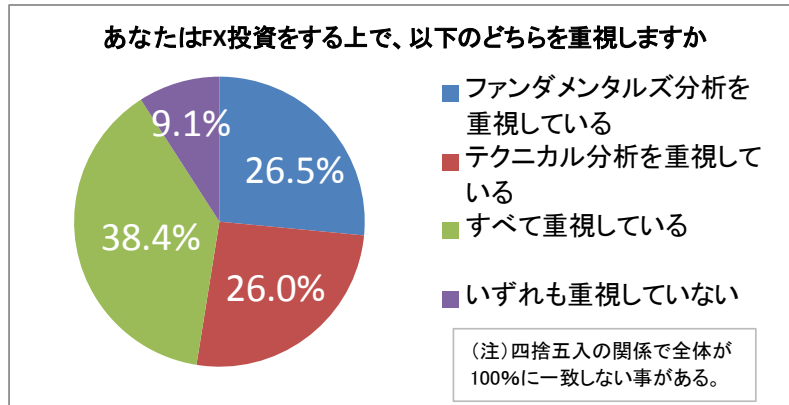


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

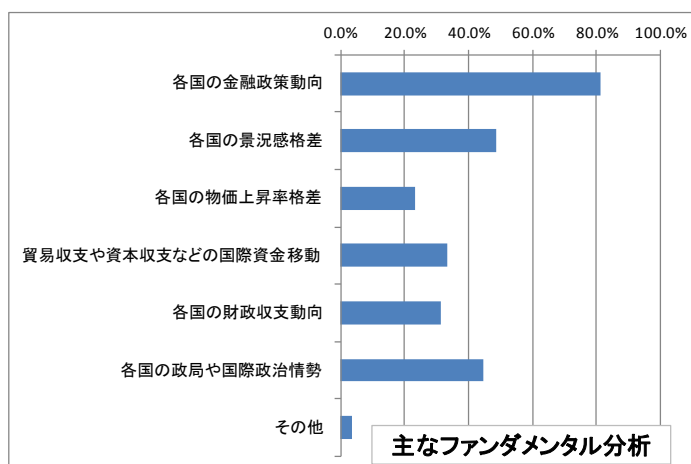
問6: あなたはFX投資をする上で、以下のどちらを重視しますか?

「FX投資の際に重視する分析手法」については、「ファンダメンタルズ分析を重視」と答えた割合が26.5%であったのに対し「テクニカル分析を重視」と答えた割合が26.0%という結果となった。また「すべて重視している」と答えた割合が38.4%と引き続き最も多かった。大きな変化は見受けられないが、前月調査ではテクニカル分析重視派が27.6%とファンダメンタルズ重視派の26.1%を上回っていた。今回の調査で、回答割合がわずかながらも逆転した背景には、日銀による「量的・質的緩和」導入という「ファンダメンタルズ」的円安要因に注目が集まった影響があったものと推測される。



問7: ファンダメンタルズ分析では何を主に活用していますか？(いくつでも)

「ファンダメンタルズ分析で主として活用する相場変動要因」について複数回答可として尋ねたところ、「各国の金融政策動向(81.2%)」と答えた割合が最も多く、「各国の景況感格差(48.8%)」、「各国の政局や国際政治情勢(44.7%)」、「貿易や資本収支等国際資金移動(33.4%)」、「各国の財政収支動向(31.4%)」、「各国の物価上昇率格差(23.2%)」の順に続いた。「各国の金融政策動向」を挙げた向きは前月調査の76.7%からさらに増加して2位以下を大きく引き離れた。4月4日に発表された日銀の「量的・質的緩和」に対する市場の反応の大きさや、G20財務相・中央銀行総裁会議でも議題に上るなど、国際社会からも大きな反響が見られた事が回答割合の増加に影響したものと思われる。

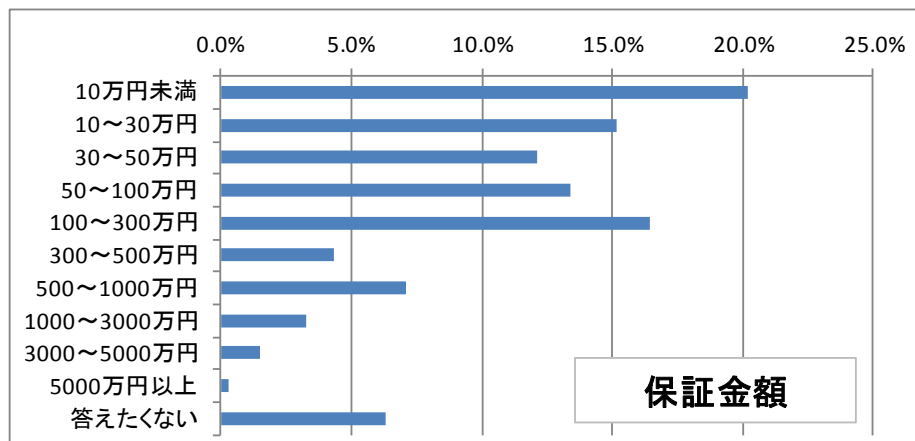


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

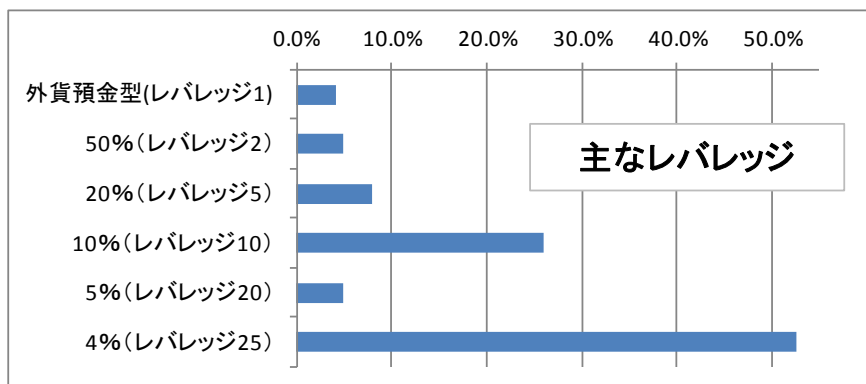
問8: FX取引の際の取引保証金の額についてお答えください(ひとつだけ)

「FX取引の際の保証金の額」について尋ねたところ、「10万円未満」と答えた割合が20.2%と最も多く、以下「100～300万円(16.4%)」、「10～30万円(15.2%)」、「50～100万円(13.4%)」、「30～50万円(12.1%)」と続いた。前月調査と比べ、順位や回答割合に顕著な変化は見られなかったが、100万円以上の保証金で取引を行っていると答えた合算割合が前月の33.7%から32.9%に小幅ながらも減少している。こうした点を鑑みると、今年に入って緩やかなペースで続いていた取引保証金の漸増傾向は一服した模様だ。最高レバレッジが25倍に制限されている現在、取引保証金の増減は取引高の多寡に影響する可能性が高いだけに、今後の趨勢が注目される。



問9: FX投資の際、主に何倍のレバレッジを活用していますか？(ひとつだけ)

「FX投資の際に主として活用している保証金率(レバレッジ)」について尋ねたところ、「4%(レバレッジ25)」と答えた割合が52.5%と最も多く、「10%(レバレッジ10)」が26.0%、「20%(レバレッジ5)」が7.8%と続き、以下「5%(レバレッジ20)」と「50%(レバレッジ2)」が4.8%と続いた。最大レバレッジである4%(25倍)を主に活用する向きが引き続き回答者の半数を超えており、FX投資家の積極的な売買姿勢が覗える結果となった。なお、今回調査に回答を寄せたFX投資家が主に活用するレバレッジの平均は17.2倍と、前月調査の16.7倍からやや上昇した。

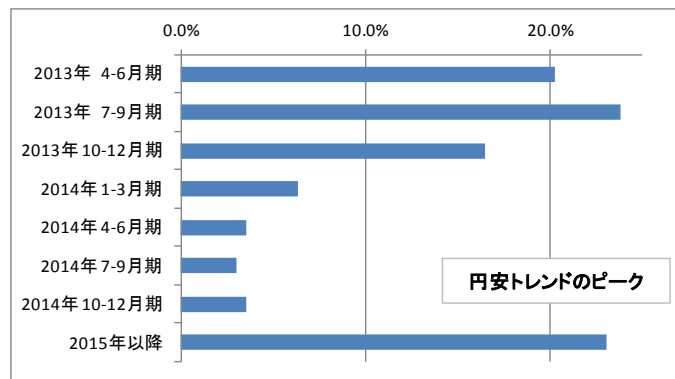


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

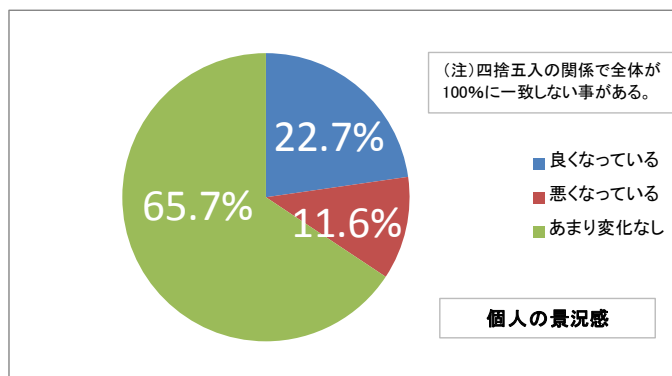
問10: 2012年11月から円安基調の為替相場ですが、今回の円安トレンドのピークはいつだと思いますか？

今月の特別質問項目として、2012年11月から円安基調の為替相場ですが、今回の円安トレンドのピークはいつだと思いますか？と尋ねたところ「2013年7-9月期(23.8%)」が最も多く、順に「2015年以降(23.0%)」、「2014年4-6月期(20.3%)」、「2013年10-12月期(16.5%)」と続いた。今年中に円安トレンドが終了すると見ているFX投資家が合算割合で60.6%に上った点は、そのポジションが外貨買い・円売りに傾いている点を考えるとやや意外である。もっとも、「2015年以降」との回答も決して少なくない。円安の持続力については思惑が2極化しているようだ。なお、円安ピーク時の米ドル/円のレートを自由記述形式で尋ねたところ、ピーク時を「2013年7-9月期」とした向きの間では、概ね105円から110円に回答が集まった。一方、「2015年以降」にピークを付けるとした向きからは105円から254円まで、大きくバラつく回答結果となった。



問11: あなた個人の「景況感」はいかがですか？(ひとつだけ)

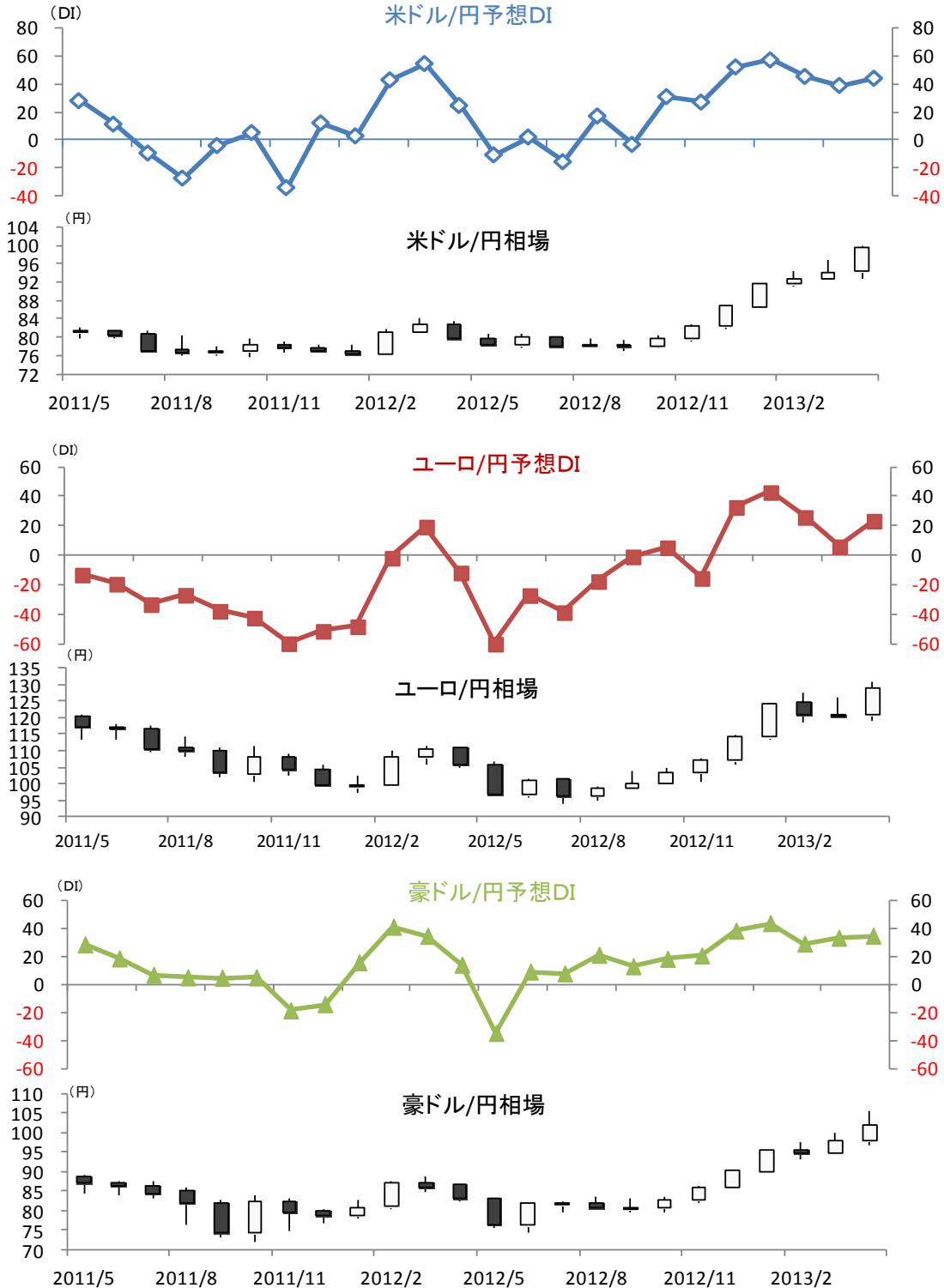
今月のもうひとつの特別質問項目として、あなた個人の「景況感」はいかがですか？(ひとつだけ)と尋ねたところ、「良くなっている」が22.7%、「悪くなっている」が11.6%、「あまり変化なし」が65.7%という結果であった。本質問は特別項目として3か月に一度の頻度で調査しているが、前回の1月調査(第44回調査)時点から「良くなっている(25.1%)」が減少した一方で、「悪くなっている(17.3%)」も減少した事になる。当然ながら「あまり変化なし(57.6%)」が増加しており、前前回調査(2012年10月第41回調査)から前回調査にかけて劇的に改善したFX投資家の景況感は足元では足踏み状態となっているようだ。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表:主要3通貨ペア予想DIと月足の推移】



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第47回目となりました。調査開始から3年以上が経過し、前月との対比での時系列比較だけでなく、前年同期との比較も可能になってきました。今後については、毎月定点観測で実施する調査結果を基に、予想DIの時系列比較等から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などの把握を進めて行きたいと考えています。

なお、毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年年初以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル/円			ユーロ/円			豪ドル/円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2011年	5月	44.3	16.3	28.0	29.4	42.3	-12.9	47.7	19.0	28.7
	6月	33.4	22.1	11.3	25.2	44.3	-19.1	41.2	22.6	18.6
	7月	29.4	38.7	-9.3	22.3	55.3	-33.0	36.2	29.4	6.8
	8月	18.1	45.3	-27.2	20.8	47.4	-26.6	36.3	31.3	5.0
	9月	23.9	27.9	-4.0	21.0	58.5	-37.5	36.4	31.7	4.7
	10月	26.3	21.0	5.3	19.4	61.5	-42.1	40.0	35.0	5.0
	11月	14.5	48.5	-34.0	12.1	71.6	-59.5	26.3	44.9	-18.6
	12月	30.2	18.0	12.2	13.5	64.6	-51.1	27.1	41.3	-14.2
2012年	1月	25.0	22.1	2.9	17.9	65.9	-48.0	40.5	24.7	15.8
	2月	57.4	14.5	42.9	36.1	37.6	-1.5	59.1	17.8	41.3
	3月	67.0	12.5	54.5	43.4	23.7	19.7	52.5	17.7	34.8
	4月	45.1	20.5	24.6	29.8	41.3	-11.5	40.8	26.7	14.1
	5月	25.9	36.5	-10.6	11.7	71.5	-59.8	21.2	56.0	-34.8
	6月	30.9	28.8	2.1	27.3	54.1	-26.8	41.0	31.8	9.2
	7月	18.4	33.9	-15.5	19.7	58.1	-38.4	36.6	28.7	7.9
	8月	36.1	19.0	17.1	27.4	44.7	-17.3	43.0	21.8	21.2
	9月	27.9	31.0	-3.2	38.7	39.2	-0.6	40.2	27.2	13.0
	10月	44.9	14.0	30.9	39.1	33.5	5.6	42.5	24.2	18.3
	11月	48.5	21.5	27.0	27.9	43.1	-15.2	44.0	23.3	20.7
	12月	69.2	17.1	52.1	56.2	23.2	33.0	56.2	17.7	38.5
2013年	1月	70.7	13.6	57.1	61.4	18.3	43.1	60.3	16.4	43.9
	2月	60.0	14.7	45.3	50.1	23.9	26.2	48.6	19.4	29.2
	3月	55.5	16.6	38.9	37.2	30.9	6.3	53.0	19.6	33.4
	4月	61.4	17.4	44.0	49.5	25.8	23.7	56.1	21.2	34.9

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com